

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公開
 ⑪ 公開特許公報 (A) 平1-278401

⑫ Int.Cl.
C 01 B 13/11

識別記号 序内整理番号
L-6939-4G

⑬ 公開 平成1年(1989)11月8日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全8頁)

⑭発明の名称 オゾン発生方法

⑮特 願 昭63-107232
 ⑯出 願 昭63(1988)4月28日

⑰発明者 松村 公治 熊本県菊池郡菊陽町津久礼2655番地 テル九州株式会社内
 ⑱発明者 志村 駿介 熊本県菊池郡菊陽町津久礼2655番地 テル九州株式会社内
 ⑲発明者 塙 宏之 熊本県菊池郡菊陽町津久礼2655番地 テル九州株式会社内
 ⑳出願人 テル九州株式会社 熊本県菊池郡菊陽町津久礼2655番地

明細書

1. 発明の名称

オゾン発生方法

2. 特許請求の範囲

原料ガスをオゾン発生部に供給し、このオゾン発生部で放電によりオゾンを発生させる際、上記オゾン発生部を発生するオゾンを一定の所望濃度で発生させる如く、上記原料ガスの温度及び湿度を制御することを特徴とするオゾン発生方法。

3. 著明の詳細な説明

【発明の目的】

(産業上の利用分野)

本発明は、オゾン発生方法に関する。

【従来の技術】

一般に、無声放電によるエネルギー、水銀放電管から放出される紫外線の光子エネルギー等によって、一部の酸素分子が解離して原子状態となり、この原子状酸素が酸素分子と結合して酸素3分子のオゾンが生成する。無声放電によるオゾン発生装置例として、例えば第8面に示す装置があ

る。この例において、平板状の接地電極(1a)はこれを冷却するために設けられたウォータージャケット(1b)の一部として設置されている。この接地電極(1a)の上方には、平板状の誘電体(2)が接して設置されており、この誘電体(2)は放電ギャップ(3)を介して平板状の高圧電極(4)と近接対向して配置され、この高圧電極(4)の上方には高圧電極(4)を冷却するための冷却フィン(5)が接して設けられている。オゾンを生成するための上記放電ギャップ(3)は高圧電極(4)の下面と誘電体(2)の上面との間に形成され、この放電ギャップ(3)に原料ガス入口(6)およびオゾンガス出口(7)に接続されている。また、上記ウォータージャケット(1b)には冷却水入口(8)と冷却水出口(9)が設置されている。これらはすべて管体(10)の内部に収納されている。

このような構成のオゾン発生装置において、高圧電極(4)および接地電極(1a)に同示しない高電圧電源から高電圧を供給し、放電ギャップ(3)内で無声放電を発生させる。このとき原ガス入口(6)から少なくとも酸素を含むガスを供給すると、放電